

Economic Indicators

発表日: 2022年10月31日(月)

鉱工業生産(2022年9月)

～7-9月期は2四半期ぶり大幅増産も、先行きは停滞感を強める見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
21	1月	▲1.9	▲5.3	1.9	▲5.2	▲1.3	▲10.3	▲4.0	▲4.0	7.6	▲0.2	0.0	▲5.7
	2月	▲0.1	▲2.6	▲0.6	▲3.7	▲0.3	▲9.4	0.6	▲3.8	0.4	6.3	▲1.7	▲5.9
	3月	1.7	3.6	0.7	3.5	0.0	▲10.0	▲1.3	▲12.5	▲3.2	8.3	0.6	1.2
	4月	1.1	15.6	1.3	15.8	0.2	▲9.9	▲0.6	▲22.0	8.9	19.2	▲0.5	15.1
	5月	▲6.2	21.0	▲2.6	21.2	▲0.5	▲8.9	1.2	▲27.8	▲1.6	22.7	▲4.5	11.0
	6月	7.2	22.9	3.2	18.9	1.6	▲5.1	▲0.2	▲21.6	3.3	22.2	2.9	9.4
	7月	▲0.8	11.1	▲0.4	10.7	▲0.3	▲4.7	1.6	▲13.3	▲0.7	19.2	0.5	0.4
	8月	▲1.9	8.4	▲2.6	6.7	▲0.1	▲3.8	1.9	▲10.0	▲1.6	24.8	▲5.2	▲5.4
	9月	▲6.5	▲2.5	▲7.2	▲4.6	2.7	0.4	4.5	0.3	▲1.4	15.1	▲13.4	▲20.0
	10月	2.1	▲4.3	2.5	▲5.9	0.5	2.1	▲1.2	4.8	▲0.9	8.8	10.9	▲14.6
	11月	5.0	4.8	5.4	3.3	1.4	5.5	▲1.5	0.5	0.6	9.9	8.9	▲1.6
	12月	0.2	2.2	0.2	2.5	0.1	4.9	▲0.3	1.2	1.5	9.7	3.4	▲0.7
22	1月	▲2.4	▲0.8	▲1.5	▲1.3	▲0.7	4.7	1.4	5.2	1.6	6.9	▲6.2	▲5.6
	2月	2.0	0.5	0.0	▲1.5	2.1	7.1	2.0	7.5	▲5.1	0.8	1.4	▲3.7
	3月	0.3	▲1.7	0.6	▲2.4	▲0.4	6.8	0.6	10.5	1.7	5.5	▲1.5	▲6.6
	4月	▲1.5	▲4.9	▲0.3	▲4.6	▲2.3	4.1	▲2.8	8.4	1.9	▲2.5	0.7	▲5.8
	5月	▲7.5	▲3.1	▲4.1	▲3.1	▲0.9	3.8	3.1	7.9	▲4.2	▲1.9	▲4.6	▲3.4
	6月	9.2	▲2.8	5.0	▲2.9	1.9	4.2	▲1.4	7.8	8.7	1.5	4.0	▲3.6
	7月	0.8	▲2.0	1.2	▲2.1	0.6	5.1	3.8	10.5	6.9	8.0	2.0	▲2.5
	8月	3.4	5.8	2.8	5.9	0.7	5.9	▲3.0	3.6	4.2	17.8	4.9	9.8
	9月	▲1.6	9.8	▲2.4	9.5	3.0	6.2	5.1	5.5	▲3.6	13.3	▲3.8	20.4
	10月	▲0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	11月	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)22年10月、11月は、製造工業生産予測調査の数値

〇7-9月期は2四半期ぶり大幅増産

経済産業省から公表された22年9月の鉱工業生産は、前月比▲1.6%と4ヶ月ぶりの低下となり、事前の市場予想(前月比▲0.8%)をやや下回った。9月はマイナスとなったが、6~8月に急速に持ち直した反動の面が大きい。実際、7-9月期で見ると前期比+5.9%と大幅増産であり、4-6月期の同▲2.7%からはっきり持ち直しがみられている。中国のロックダウン解除や内外における設備投資需要の拡大が押し上げ要因となっている。

7-9月期を業種別にみると、自動車部品等の供給制約の緩和で輸送用機器が大幅増産(前期比+11.5%)となったほか、設備投資需要の増加で生産用機械(同+14.2%)の押し上げも大きかった。一方で、気掛かりなのが電子部品・デバイスであり、前期比▲7.8%(4-6月期:同▲4.7%)と2四半期連続のマイナスとなった。これまで堅調だった半導体等のIT需要の減少によりブレーキが掛かっており、先行きにも不安が残る。

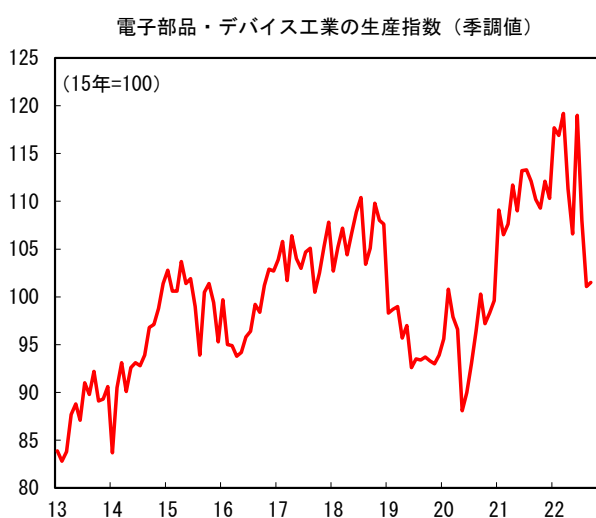
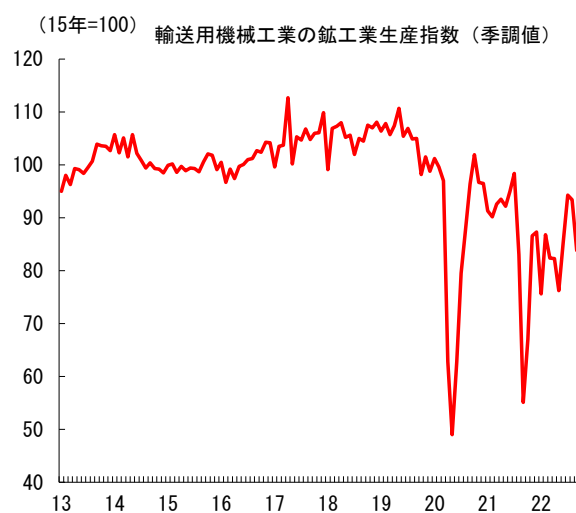
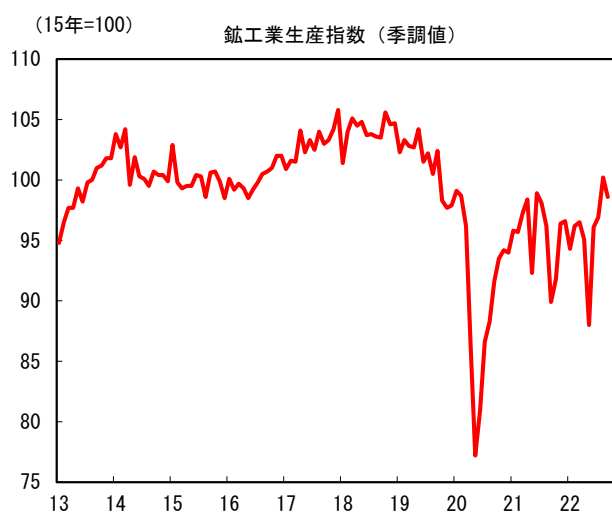
〇10-12月期は楽観できず

一方、先行きについては懸念が残る。同時に公表された製造工業予測指数は、10月が前月比▲0.4%、11月が同+0.8%となった。仮にこの数字が実現されれば、10-11月平均は対7-9月期比で横

ばいとなるが、予測指数には下振れバイアスがあることに注意が必要だ。この点を考慮した経済産業省による10月の補正試算値は前月比▲3.7%の大幅低下となっている。10-12月期については停滞感が強まるとみられ、マイナスに転じる可能性が高い。

業種別にみれば、輸送用機械については、9月はこれまでからの反動減で前月比▲10.3%と大幅減少となったあと、予測指数では10月が同+1.3%、11月が同+4.1%と小幅の増産に留まり、9月の落ち込みを取り返すに至らない。供給制約が一時より緩和しているとはいえ、自動車メーカーの生産計画は半導体不足を背景に修正を余儀なくされており、均してみると依然弱い動きが続きそうだ。また、足元では世界的な半導体需要のピークアウトから電子部品・デバイス生産の下振れが目立ち始めており、先行きも生産の足を引っ張る可能性が高い。

今後については、海外需要の動向に引き続き注意が必要だ。高インフレやガス不足に悩まされる米国、欧州の急ピッチな金融引き締め政策により、海外経済は減速懸念が強まっている。日本からの輸出も頭が抑えられる可能性が高く、生産への影響も相応にあると考えられるだろう。総じて、10-12月期については停滞感の強い動きになると見込む。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。